

授業実践課題探究コース

③自由度の高いカリキュラム

“わたし”の“こだわり”や“問題意識”に関わる科目を兵庫教育大学大学院のすべてのコースで開講されている中から受講することができます。そこで得た専門的知識を修学指導教員やコースの仲間と語り合うことを通して“わたし”の教育実践課題の解決へと活用します。研究領域、教科が特定されていない授業実践課題探究コースだからこその“他コース”にはない“わたし”のカリキュラム(学び)を創造できます。それが授業実践課題探究コースです。



④修士論文ではない「学びの報告書」

本コースでは修士論文に代わるものとして、院での学びの歩みを「学びの報告書」として作成します。教育実践リフレクション科目を通して、日々の授業改善、教材開発、先行事例の探索等に取り組んだことを、教育研究成果として蓄積(ポートフォリオ)していくこととしています。



⑤皆さんと並走する教員メンバー

あなたの授業実践課題の探究を支えます

- 
教授 勝見 健史 コース長
 各校の課題に関わりながら、教師の力量に還元させていく実践的研究に取り組んでいます。皆さんの自律的な研究展開のサポートができればと思います。
- 
教授 鈴木 正敏
 幼児教育に関する知識をもとに、主体的・対話的で総合的な学びとは何かを探っています。ワクワクする授業づくりや子どもに寄り添った実践と一緒に考えましょう。
- 
教授 山本 智一
 日々の授業実践や学級づくりについて、子どもが知識や文化を構築するプロセスに注目しながら分析し、よりよい実践を目指しています。
- 
教授 別惣 淳二 ※令和7年度まで担当
 教育実習生の力量形成に関する研究を行っています。特に省察力に注目して学び続ける教師を養成するためにはどうすればよいかを考えています。
- 
教授 加藤 久恵
 数学的な見方・考え方や、メタ認知を育てることを目指して、子どもの考え方やつまづきを生かした授業づくりを研究しています。

あなたの
 ・授業の中で感じている課題や疑問
 ・なかなか乗り越えられないつまづき、葛藤
 ・ずっと大切にしてきたこだわり
 ・取り組んでみたい新たな挑戦
 に応えるコースです。



あなたの授業力をバージョンアップ!

オンラインで参加できる!

行事が重なっても大丈夫!

★Zoomなどを活用し遠隔からの受講、好きな時間に学べるVoDも!
 ★授業実践課題探究コースは、実習科目の全部又は一部を免除!

コースサイト



①このコースで学べること

日々の授業実践を見つめ直し、更新しながら進む

教室で繰り広げられる授業実践の中に存在する、「今、その教師にとって意味をもつ日々の実践課題」を研究課題として取り上げることができるコースです。

その教師の成長の物語におけるこだわり、つまづき、克服、疑問、葛藤を価値ある研究課題として優先します。

研究課題の解決は、教室の日々の授業実践の更新へ還元していくことを大切にします。そのために昼間勤務する学校での授業実践との繋がりが連続性・関係性を捉え直すコースです。

教師の個性的な成長の物語をリフレクションしながら、それと絶えず関係づけつつ、授業への見方考え方を紡ぎ直し、変容させていく過程の自覚が本コースならではの探究です。



あなたの歩み・成長の物語
(ポートフォリオ)

②研究の進め方

本コースの研究の進め方は、長期・中期・短期の3つのスパンのリフレクションの場合(「教育実践リフレクション」)を活用し、並走する大学教員と対話的・相談的に研究内容や方法を柔軟に更新しながら進めていきます。

長期リフレクション

入学時・修了時に実施します。
《学びの履歴図》を用いて教師としての自らの成長の足跡をひもとき、院での研究の意味を自覚します。

中期リフレクション

前期末・後期末に実施します。
《研究デザイン図》を用いて半期の研究課題に向けた取り組みの状況と今後の見通しを自覚します。

短期リフレクション

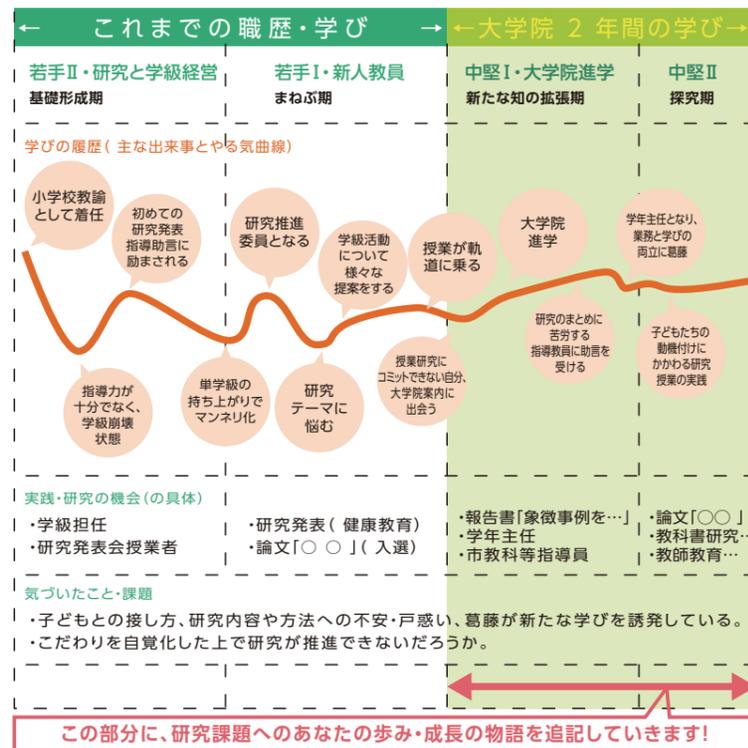
2週間ごとに実施します。担当教員と共に、研究課題の解決に向けて、学際的な手法を手がかりにして実践との往還を視野に検討を進めます。

並走する教員、共に学ぶ院生(同学年・異学年)と交流・共有

長期リフレクション

「学びの履歴図」によるあなたの授業力成長の俯瞰

長期リフレクションは入学時と修了時に行い、自身の立ち位置を確かめながら、あなたにとっての研究課題の意味を捉えていきます。



長期リフレクションは、意味をもつ日々の実践課題をどうして研究課題として取り上げるに至ったのかを省察します。教師としての歩みを振り返り、問題がなぜ発露したのかを問い直すこととなりますので、**入職された時から、現在に至るスパン**がリフレクションの対象となります。

「長期リフレクション」は主に学びの

履歴図を用いて、院生、コース教員が協働して実践します。過去から現在にかかわる**成長の物語から課題と授業実践との繋がりが連続性・関係性を同定**します。およそ半期ごとの学びの発表会を目標として更新し、過去の実践を都度振り返り、どのような学修の成果、課題が新たに加わったのかを可視化していきます。

中期リフレクション

中期リフレクションによる「研究デザイン図」のリ・デザイン

各学期ごとに、他者とともにリフレクションを行い、**研究デザインを見直します**。(赤文字は、修正・加筆された内容を示しています)



Aさんの例

第1期	校内研修による、ICTを活用した授業の活性化				
入学時	学習理論 ・CSCL研究 (ICTを使った協調学習支援) ・探究的な学び ・アクティブラーニングの視点	問題意識 ・Society5.0 ・自ら学ぶ子 ・新しいテーマでの研究発表会 ・表現力に課題	評価分析の手法 ・協調に関する意識調査(質問紙) ・ルーブリックの作成とフィードバック ・知識技能面の評価(市販のテスト)	実践の背景 ・1人1台のiPadの導入 ・デジタル教科書の導入 ・iPadの活用と操作に習熟した児童 ・校内研究テーマ「自ら考え共に学ぶ子」 ・校務分掌:GIGA ・スクール研究推進担当	実践化の手法 ・第5-6学年の担任として実践 ・デザイン実践2年間2単元で実施可能
第2期	ICTを活用した生徒イジェンシーの育成				
1年前期終了時	学習理論 ・OECDラーニングコンパス2030 ・生徒イジェンシー(OECD, 2018) ・CSCL研究 (ICTを使った協調学習支援) ・探究的な学び	問題意識 ・Society5.0 ・生徒イジェンシーの必要性 ・新しいテーマでの研究発表会	評価分析の手法 ・生徒イジェンシーに関する意識調査(質問紙) ・活動の記録(ワークシート・動画撮影) ・ルーブリックの作成とフィードバック	実践の背景 ・1人1台のiPadの導入 ・iPadの活用と操作に習熟した児童 ・校内研究テーマ「自ら考え共に学ぶ子」 ・校務分掌:GIGA ・スクール研究推進担当	実践化の手法 ・第5-6学年の担任として実践 ・学級活動(特活)と体育授業で実施可能
第3期	ICTを活用した、生徒イジェンシーの育成(学級活動)				
1年後期終了時	学習理論 ・OECDラーニングコンパス2030 ・生徒イジェンシー(OECD, 2018) ・CSCL研究 (ICTを使った協調学習支援) ・探究的な学び ・反転授業	問題意識 ・Society5.0 ・生徒イジェンシーの必要性 ・主体的な学級活動で感じる課題 ・ICTのメリット・デメリット	評価分析の手法 ・質問紙調査(全国学力・学習状況調査をもとに) ・ICTを導入した学級活動の事例	実践の背景 ・1人1台のiPadの導入 ・iPadの活用と操作に習熟した児童 ・校内研究テーマ「自ら考え共に学ぶ子」 ・校務分掌:GIGA ・スクール研究推進担当	実践化の手法 ・学級活動でのICT活用 ・ペスト係アンケートによるフィードバックとふりかえり
第4期	ICTを活用した、生徒イジェンシーの育成(体育科の授業)				
2年前期終了時	学習理論 ・OECDラーニングコンパス2030 ・生徒イジェンシー(OECD, 2018) ・CSCL研究 (ICTを使った協調学習支援) ・探究的な学び ・反転授業	問題意識 ・Society5.0 ・生徒イジェンシーの必要性 ・体育科の授業改善 ・ICTのメリット・デメリット	評価分析の手法 ・質問紙調査(全国学力・学習状況調査をもとに) ・ICTを導入した体育科の授業の事例(録画と発話分析・ICT上のシート分析)	実践の背景 ・1人1台のiPadの導入 ・iPadの活用と操作に習熟した児童 ・校内研究テーマ「自ら考え共に学ぶ子」 ・校務分掌:研究推進担当 チーム担任制(教科担任)	実践化の手法 ・体育科授業でのICT活用 ・学習支援ソフトの活用 ・電子ポートフォリオ ・反転授業
第5期	実践とリフレクションへ!				
2年後期終了	学びの発表会				

短期リフレクション

日々の実践と振り返り、問題意識を掘り下げる

指導教員と共に、**2週間に1回のリフレクション**を行い、自らの問題意識や思いを掘り下げます。それを受けて、**資料や先行事例を収集**したり、子どもの実態を**新たな視点で観察**したりします。また、興味のある講義を受講し、**新しい**

知見を吸収することもできます。さらに、同学年の院生・指導教員と共に、2ヶ月に1回程度のリフレクションを行い、お互いの学びについて議論し、中期リフレクションに繋いでいきます。

